

袋井市地域公共交通計画（前計画）の 令和7年度進捗状況及び数値目標の評価について

令和3年3月に策定し、令和6年6月に一部改訂した「袋井市地域公共交通計画（前計画）」に基づき、「公共交通が移動手段として選ばれるまち」を実現するために位置付けた事業の取り組みについて、事業の評価・検証を実施します。

1 計画事業一覧（前計画）に基づく主な取組〔令和7年度実施〕

1-③ 市内高校への通学路線の確保・維持

7-① 通学を対象とした路線バスの利用促進策の実施

◆ 市内高校体験入学におけるチラシ配布

市内高校（袋井高校、袋井商業高校）において、中学生の一日体験入学を実施した際に、路線バスの通学利用を案内するチラシを作成し、配布した。

＜実施主体：市、バス事業者、高校＞



2-① 地域主体の移動手段の確保

◆ 「笠原地区買物タクシー」の試験運行を実施 【参考・・・報告資料4】

高齢者をはじめとする地域住民の誰もが安心して生活できるよう移動手段を確保するため、買い物にターゲットを絞ったタクシーの試験運行を実施した。

＜実施主体：笠原地区まちづくり協議会、タクシー事業者、市＞

5-① バス停におけるサイクル&バスライド駐輪場の整備

◆ 市内の公共施設・商業施設との設置調整

市内バス路線沿線の公共施設、商業施設に、バス利用者への施設駐輪場開放について令和8年度からの実施に向け5施設と調整を行った。

7-② 大人のバス乗り方教室の開催

8-① 運転士の人材確保

◆ 市内イベントへの出展

市内イベント「ふれあい夢市場」（令和7年11月開催）において、秋葉バス車両及び市自主運行バス車両を展示した。運転士も参加し、来場者からのご質問に答える等の対応を行った。 ＜実施主体：バス事業者、市＞

- ・展示物 バス車両、運転士募集に関するポスター、子供向けの運転士制服
- ・配布物 路線図・時刻表、バス乗り方チラシ、運転士募集チラシ、啓発グッズ、ぬり絵、ペーパークラフト

◆ 「広報ふくろい」等への記事掲載

公共交通の運転士という仕事について、市民に広く興味を持ってもらえるよう、次のとおり記事掲載等を実施した。

＜実施主体：市、バス・タクシー事業者＞

- ・ 「広報ふくろい」へのお知らせ掲載（５月）及び、市役所１階の行政情報放映モニターでの放映（５月、１２月）を実施した。
- ・ 「はたちの集い」記念誌送付対象者への市事業お知らせチラシに、記事と市ＨＰへ誘導するＱＲコードを掲載した。（令和８年３月）
（チラシ記事↓）

	～バス・タクシーの運転士をめざしてみませんか？～ バスやタクシーの運転士は全国的に人手不足が続いており、公共交通の担い手が不足することで地域の移動手段の維持が難しい状況になりつつあります。袋井市では「公共交通が移動手段として選ばれるまち」を目指し、事業者や地域と連携して公共交通の利便性向上に取り組んでいます。バスやタクシーの運転士は、地域の皆さんの移動を支える重要な仕事です。地元が好きな方、地元で働きたい方、ぜひ地域を支える公共交通の運転士を目指してみませんか？ 問合せ 協働まちづくり課交通政策係 電話 0538-44-3125 FAX 0538-43-2132
---	---

2 その他の取組〔令和７年度実施〕

（１）磐田線の運賃改定

近年の人件費や燃料代、修繕費等の維持コスト、車両価格の高騰などを踏まえ、路線維持に向けた収支改善のため、令和８年度からの運賃改定（値上げ）を検討した。

⇒ 令和８年５月１日から運賃改定を実施【参考…報告資料５】

（２）自主運行路線の業務委託化の検討

自主運行路線である「磐田線」「袋井駅・中東遠総合医療センター線」の業務委託化について検討した。

⇒ 磐田線 令和８年度から業務委託化

（３）バス停への掲載情報の追加（自主運行バス）

自主運行バスの利用者に情報をわかりやすく伝えるため、バス停の時刻表に加えて、次の情報を追記した。

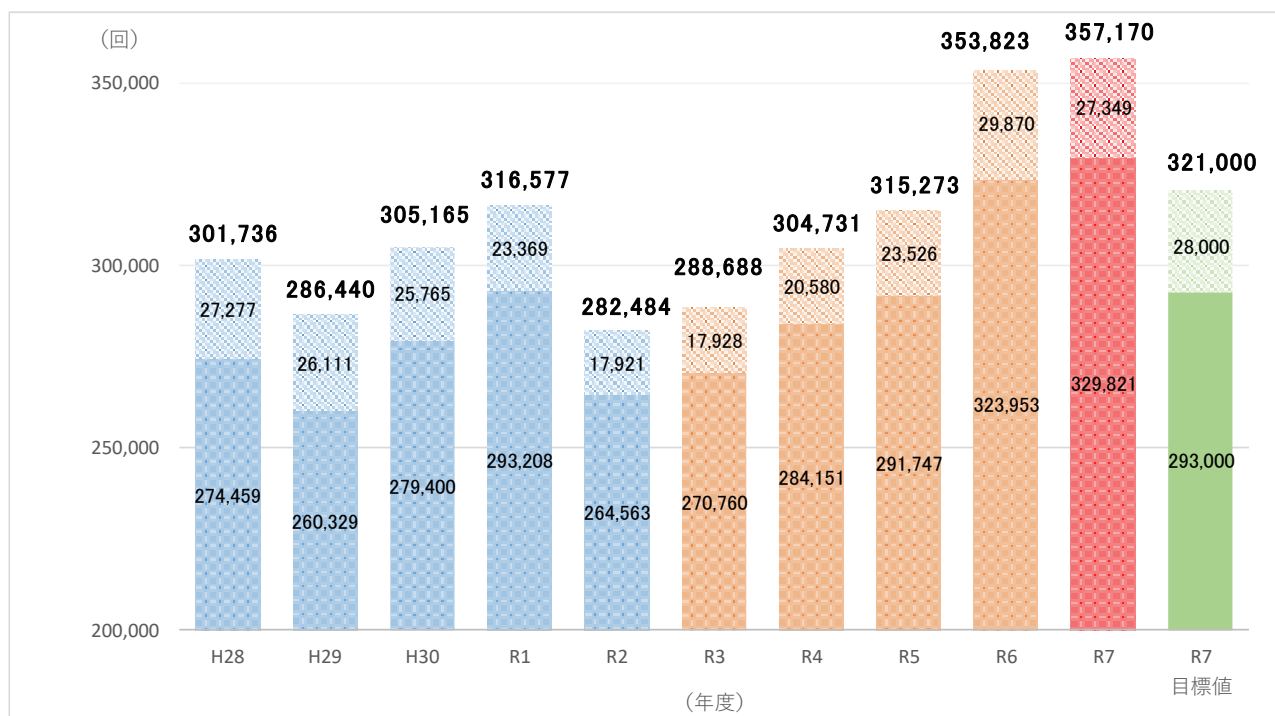
ア 袋井市バスマップの配布場所の案内

イ 市ＨＰ（公共交通ページ）ＱＲコードの表示

ウ 片側バス停の案内 ※片側バス停での待機場所を表示

3 数値目標の評価

評価指標 1：路線バス等の年間利用回数



※上段：自主運行バス等（自主運行バス、デマンドタクシー、地域協働運行バス）

下段：路線バス（秋葉バスサービス(株)が運行する路線）

（1）達成状況・分析

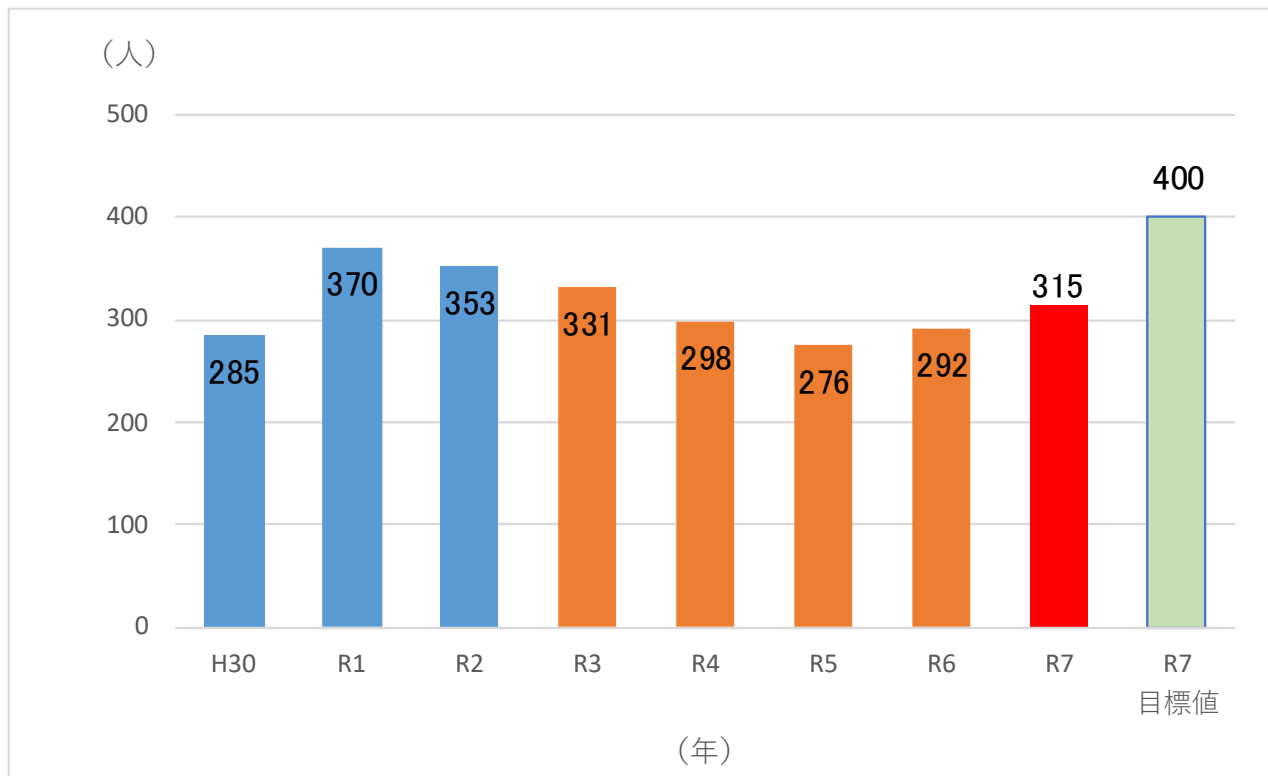
達成 R7実績 357,170回 / R7目標 321,000回

- ・ 自主運行バス等では、自主運行バス及びデマンドタクシーの運賃値上げの影響か、令和7年度の利用回数は令和6年度と比較して8.4%の減少とした。
- ・ 路線バスでは今井線の廃止（令和7年3月末）や袋井駅・中東遠総合医療センター線の減便（往復12便→8便）により利用者減少の要因があったものの、令和7年1月から秋葉線の全区間での運行を再開や、沿線高校への通学利用の定着や外出機会の増加傾向にある影響により、令和7年度の利用回数は令和6年度と比較して2.0%増加となった。

（2）評価・次年度に向けた課題や取組

- ・ 計画に基づいた取り組みを実施したことで、路線バス及び自主運行バス等の利用はコロナ前の水準程度まで回復し、目標を達成することができた。
- ・ 令和8年度には路線バスの運賃改定による影響も懸念されるが、わかりやすい公共交通に関する情報提供を継続し、利用回数の現状維持に努める。

評価指標 2-1 : 運転免許証の自主返納者数 (65 歳以上)



(1) 達成状況・分析

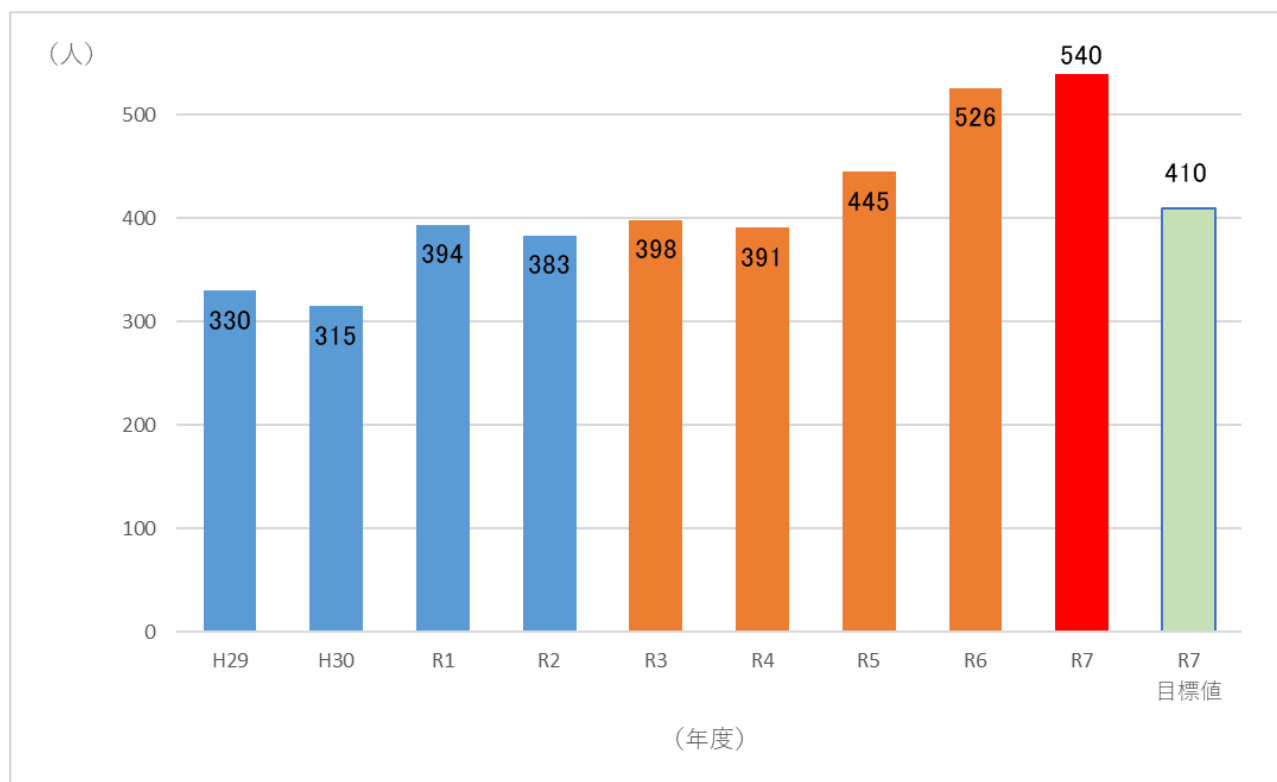
未達成 R7 実績 315 人 / R7 目標 400 人

- ・ 返納者数が大きく上昇した令和元年度からは減少傾向であったが、令和6年度に増加に転じ、令和7年度実績も前年度と比較して7.9%増加した。
- ・ 近年、全国的に運転免許所有者が高齢化（構成率の増加）していることから、それに伴い免許の自主返納者も高齢化していると考えられる。
- ・ 自主返納者においては、返納と同時に運転免許経歴証明書の発行を申請する方が多いが、同証明書の発行を必要としない方などで、免許の失効を待つ方も一定数いると考えられる。

(2) 評価・次年度に向けた課題や取組

- ・ 公共交通のわかりやすい情報提供や、運転経歴証明書を発行した高齢者に対する報奨金の交付等により、運転免許の返納促進に努めたが、目標は未達成となった。

評価指標 2-2：路線バスの通学定期券の利用人数



※ R 5 年 10 月から利用開始したスマホ定期の集計方法が紙定期と異なる（紙定期との重複あり、利用者の年齢情報なし）ため、数字は上向きとなっている。

（１）達成状況・分析

達成 R7 実績 540 人 ／ R7 目標 410 人

- 通学定期券の利用人数が増加し、令和 6 年度と比較し 2.6% 増加したことが、路線バス全体の利用者数の増加にも繋がったと考えられる。

（２）評価・次年度に向けた課題や取組

- 路線変更や市内高校への進学を控えた中学生向けの P R 活動を継続したことが、路線バスの高校通学利用の定着に繋がったことで、通学定期券の利用人数が増加したものとする。
- 高校や近隣市町と連携した周知を行うとともに、進学を控えた中学生向けへの P R 活動を継続し、自主路線の運行内容の見直し等を実施する。

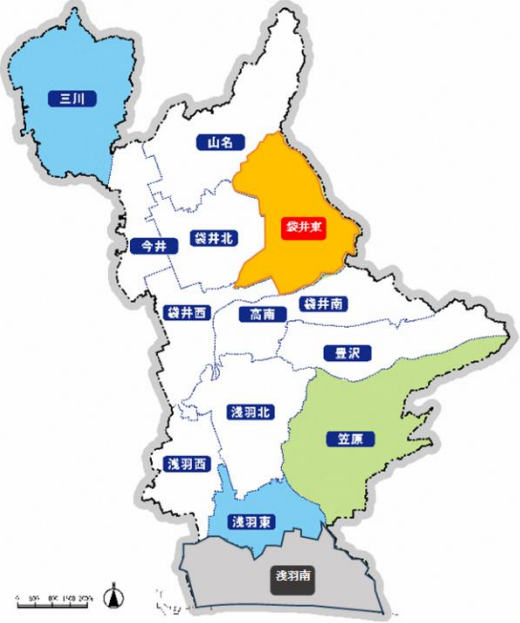
評価指標 3：地域主体による移動手段の運行地区数

【目標値】

地域主体による移動手段の運行地区数

「2地区（令和元年度実績）」⇒「5地区（令和7年度目標）」

【令和7年度実績】

	対象地区	移動手段
	三川	協働運行バス（かわせみ） 【H22.12.1～】
	浅羽東	協働運行バス（めだか号） 【H25.2.20～】
	袋井東	こすもすタクシー 【R6.4.1～】
	笠原	買物タクシー（試験運行） 【R8.1～R3】
	浅羽南	外出支援を含めた既存の移動手段を整理し、周知と活用を進める。 ※令和6年度勉強会の結果

（1）達成状況・分析

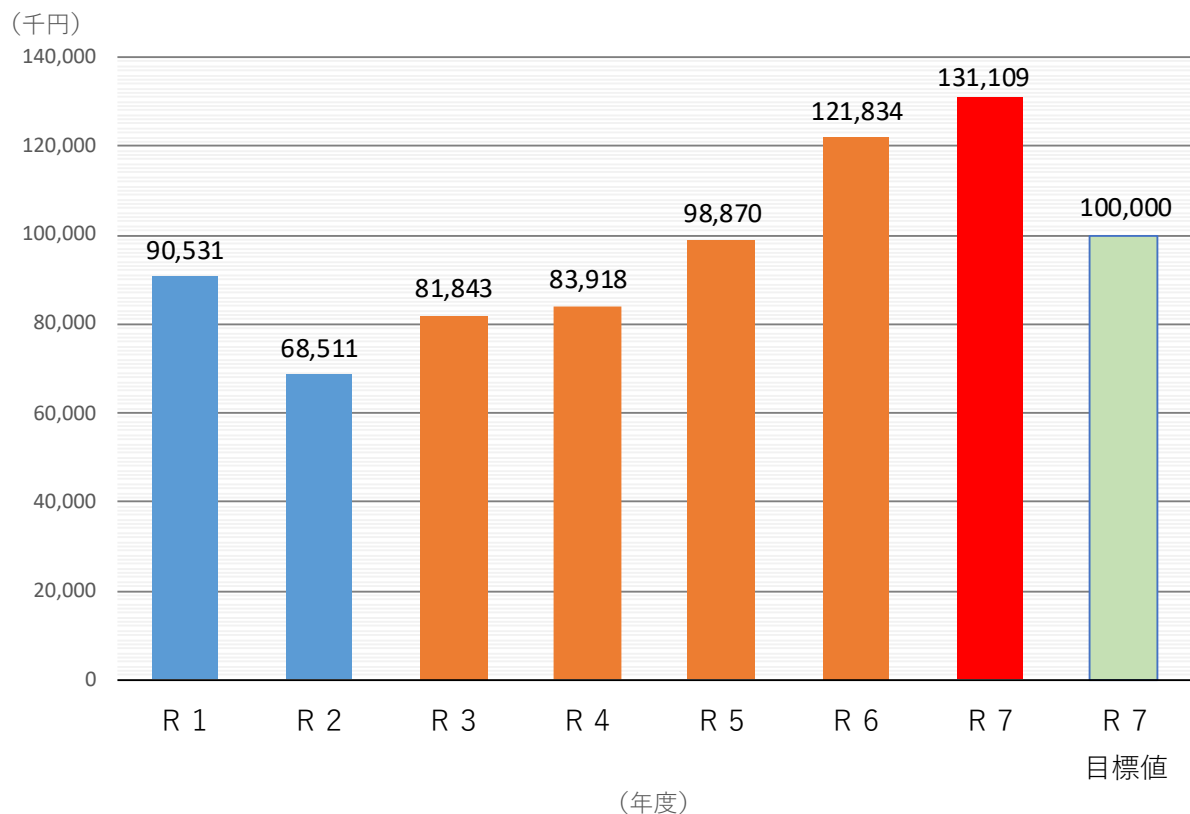
未達成 R7実績 4地区 / R7目標 5地区

- 令和7年度は、地域主体の移動手段の運行を行っている3地区（三川、浅羽東、袋井東）に加え、笠原地区において買物タクシーの試験運行を実施したことで、運行地区数は4地区となった。
- 浅羽南地区においては、令和6年度に地区で勉強会を開催し、外出支援を含めた既存の移動手段を整理し、周知と活用を進めることとなった。

（2）評価・次年度に向けた課題や取組

- 5地区での地域主体による移動手段の運行には届かなかったものの、集中支援地区の3地区（袋井東、笠原、浅羽南）では協議が着実に進展し、地域の公共交通に対する意識が高まった。また、袋井東地区では令和6年度から地域タクシーの本格運行を開始することができた。
- 笠原地区においては、買物タクシーの試験運行の結果を分析し、地域に合った移動手段の検討を継続する。

評価指標 4－1：公共交通に係る市の財政負担額



※ 財政負担額 ＝ 市支出額 － 市収入額 (国・県補助金、運賃収入)

(1) 達成状況・分析

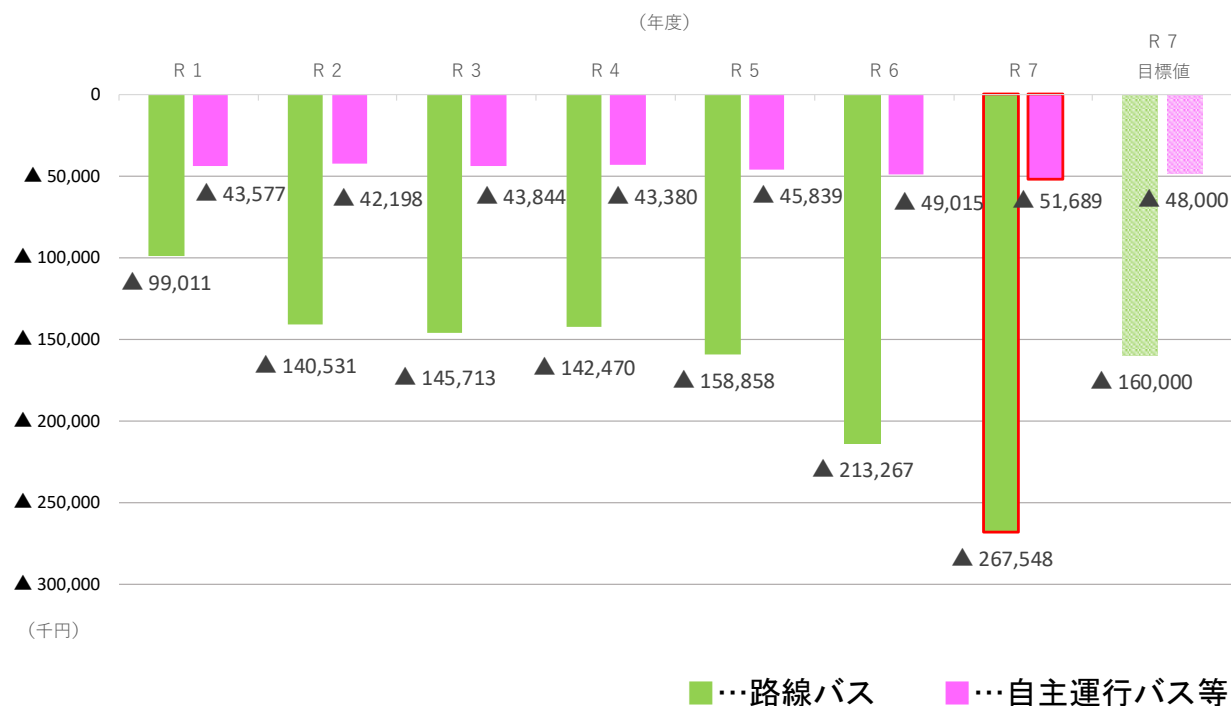
未達成 R7 実績 131,109 千円 / R7 目標 100,000 千円

- ・ 市の財政負担額は、昨年度と比較して約 7.6%増加した。
- ・ 燃料費を始めとした物価高騰や運転士確保のための処遇改善に伴う運行経費の増加が主な要因と考える。

(2) 評価・次年度に向けた課題や取組

- ・ 計画に基づいた取り組みを実施したことで、路線バス及び自主運行バス等の利用はコロナ前の水準程度まで回復し、運行内容の見直しや運賃改定による財政負担の軽減に取り組んだ。物価高騰や運転士確保のための処遇改善に伴う経費増加が大きく影響したことで、財政負担額が目標値よりも大きくなった。
- ・ 今後も新計画に基づく取り組みを着実に実施し、路線バスの利用促進やデマンドタクシーの乗合率向上を図り、必要に応じて運賃改定も検討する。

評価指標 4-2：市内路線バス等の収支差



(1) 達成状況・分析

未達成 路線バス R7 実績 △267,548 千円 / R7 目標 △160,000 千円

未達成 自主運行バス等 R7 実績 △51,689 千円 / R7 目標 △48,000 千円

- ・ 昨年度と比較し、収支差（欠損額）は路線バスで約 25.4%、自主運行バス等で約 5.4%増加した。
- ・ 燃料費を始めとした物価高騰や、運転士確保のための処遇改善による運行経費の増加が大きかったことが主な要因と考える。

(2) 評価・次年度に向けた課題や取組

- ・ 計画に基づいた取り組みを実施したことで、路線バス及び自主運行バス等の利用はコロナ前の水準程度まで回復し、運行内容の見直しや運賃改定を実施したが、物価高騰や運転士確保のための処遇改善に伴う経費増加が大きく影響したことで、欠損額（収支差）が目標値よりも大きくなった。
- ・ 欠損額の増加は、市の財政負担の増加に繋がることから、今後も新計画に基づく取り組みを着実に実施し、路線バスの利用促進やデマンドタクシーの乗合率向上を図り、必要に応じて運賃改定も検討する。

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

袋井市地域公共交通計画の評価等結果（令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
【評価指標 1】 路線バス等の年間利用回数：316,577 回/年（令和元年度実績） → 321,000回/年 （令和 7 年度目標）	計画に位置付ける各種事業の実施	交通事業者や市が有する年間の公共交通利用回数を集計する	【達成】357,170回/年（令和 7 年度） ・路線改変による高校への通学利用の定着や、秋葉線全区間での運行再開（令和 7 年 1 月～）したことにより、利用者数が昨年度と比較して増加した。 （令和 6 年度：353,564回/年）	・計画に基づいた取り組みを実施したことで、路線バス及び自主運行バス等の利用はコロナ前の水準程度まで回復し、目標を達成することができた。 ・令和 8 年度には路線バスの運賃改定による影響も懸念されるが、わかりやすい公共交通に関する情報提供を継続し、利用回数の現状維持に努める。	
【評価指標2-1】 運転免許証の自主返納者数：353人（令和 2 年実績） → 400人 （令和 7 年目標）	高齢運転者が安心して運転免許証を自主返納できる交通環境の整備	袋井警察署が有する年間の運転免許返納者数を集計する	【未達成】315人/年（令和 7 年） ・令和元年度からは減少傾向であったが、令和 6 年度から増加に転じている。 ・免許所有者の高齢化に伴い、自主返納者も高齢化していると考えられる。 ・運転免許経歴証明書の発行を必要としない方など、免許の失効を待つ方も一定数いると考えられる。 （令和 6 年度：292人/年）	・公共交通のわかりやすい情報提供や、運転経歴証明書を発行した高齢者に対する報奨金の交付等により、運転免許書の返納促進に努めたが、目標未達成となった。	年単位（1 月～12 月）の期間で算出
【評価指標2-2】 路線バスの通学定期券の利用人数：394人（令和元年度実績） → 410人 （令和 7 年度目標）	高校生が通学手段として公共交通を選択できるためのサービス提供	交通事業者が有する年間の通学定期券購入者数を集計する	【達成】540人（令和 7 年度） ・通学定期券の利用人数も昨年度と比較し増加しことが、路線バス全体の利用者数増加にも繋がったと考えられる。 （令和 6 年度：526人）	・路線改変や市内高校への進学を控えた中学生向けの P R 活動を継続したことが、路線バスの高校通学利用の定着に繋がったことで、通学定期券の利用人数が増加したものと考える。 ・高校や近隣市町と連携した周知を行うとともに、進学を控えた中学生向けへの P R 活動を継続し、自主路線の運行内容の見直し等を実施する。	
【評価指標 3】 地域主体による移動手段の運行地区数：2 地区（令和元年度実績） → 5 地区 （令和 7 年度目標）	公共交通に対する市民の意識を高め、地域ごとに地域主体の移動手段を導入	運行地区数を集計する	【未達成】4 地区（令和 7 年度） ・3 地区（三川、浅羽東、袋井東）での運行に加え、笠原地区で買物タクシーの試験運行を実施した。 ・浅羽南地区は既存の移動手段を活用。 （令和 6 年度：3 地区）	・5 地区での地域主体による移動手段の運行には届かなかったものの、集中支援地区（3 地区：袋井東、笠原、浅羽南）では協議が着実に進展し、地域の公共交通に対する意識が高まった。また、袋井東地区では令和 6 年度から地域タクシーの本格運行を開始することができた。 ・笠原地区においては、買物タクシーの試験運行の結果を分析し、地域に合った移動手段の検討を継続する。	
【評価指標4-1】 公共交通に係る市の財政負担額：83,918円（令和 4 年度実績） → 100,000千円 （令和 7 年度目標）	計画に位置付ける各種事業の実施の他、運行内容の見直し等による経費節減や運賃改定	市の財政負担額を集計する	【未達成】131,109千円（令和 7 年度） ・物価高騰や運転士確保のための処遇改善に伴う経費増加の影響が大きい。 （令和 6 年度：121,834千円）	・計画に基づいた取り組みを実施したことで、路線バス及び自主運行バス等の利用はコロナ前の水準程度まで回復し、運行内容の見直しや運賃改定による財政負担の軽減に取り組んだ。物価高騰や運転士確保のための処遇改善に伴う経費増加が大きく影響したことで、財政負担額が目標値よりも大きくなった。 ・今後も新計画に基づく取り組みを着実に実施し、路線バスの利用促進やデマンドタクシーの乗合率向上を図り、必要に応じて運賃改定も検討する。	
【評価指標4-2】 市内路線バス等の収支差：路線バス△142,470千円、自主運行バス△43,380千円（令和 4 年度実績） → 路線バス△160,000千円、自主運行バス等△48,000千円 （令和 7 年度目標）	計画に位置付ける各種事業の実施の他、運行内容の見直し等による経費節減や運賃改定	路線バスと自主運行バスの収支差を集計する	【未達成】 路線バス △267,548千円（令和 7 年度） 【未達成】 自主運行バス等 △51,689千円（令和 7 年度） ・物価高騰や運転士確保のための処遇改善に伴う経費増加の影響が大きい。	・計画に基づいた取り組みを実施したことで、路線バス及び自主運行バス等の利用はコロナ前の水準程度まで回復し、運行内容の見直しや運賃改定を実施したが、物価高騰や運転士確保のための処遇改善に伴う経費増加が大きく影響したことで、欠損額（収支差）が目標値よりも大きくなった。 ・欠損額の増加は、市の財政負担の増加に繋がることから、今後も新計画に基づく取り組みを着実に実施し、路線バスの利用促進やデマンドタクシーの乗合率向上を図り、必要に応じて運賃改定も検討する。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

区分		事業名		事業概要	実施主体	目標1	目標2	目標3	実施した取組	結果	自己評価
						公認市 共識民 交通して も日常 から える	公選移高 共人動 交通で も手 段と して える	公地 共域 交通で 支え 合う			
運行のレベルアップ	1 基幹路線の質の向上	1-①	鉄道の維持	・鉄道の運行	鉄道事業者	●	●		・継続実施	○	運行を継続できた。
		1-②	基幹バス路線の維持・改善	・通学・通勤手段として基幹バス路線(秋葉線・秋葉中遠線)の維持・改善(系統・経由地・バス停位置改善等)	バス事業者/地域公共交通会議/袋井市	●	●		・危険なバス停の安全対策実施 ・袋井駅・中東遠総合医療センター線のバス停追加 ・系統の見直し、バス停名称の統一 ・キャッシュレス決済の導入	○	個別事業を継続できた。
		1-③	市内高校への通学路線の確保・維持	・市内高校へのバス路線の確保・維持・魅力化	バス事業者/地域公共交通会議/袋井市	●	●		・市内高校体験入学でのチラシ配布 ・袋井駅・中東遠総合医療センター線の経路変更、バス停追加 ・バス停周辺への照明設置	○	個別事業を継続できた。
	2 地域の移動手段の確立	2-①	地域主体の移動手段の確保	・地域主体の新たな移動手段の導入実験・運行 ・地域の移動手段を考える会の設立・支援	市民(自治会等)/タクシー等交通事業者/地域公共交通会議/袋井市		●	●	・地域タクシーの試験運行実施(袋井東地区、笠原地区) ・地域タクシーの本格運行開始(袋井東地区) ・移動手段に関する勉強会を実施(浅羽南地区)	×	1地区(袋井東地区)で本格運行を開始できたが、笠原地区では実施できなかった。
		2-②	持続可能な地域協働運行バスの構築	・持続可能な運行方法の検討・移行	地域協働運行バス運営委員会/袋井市		●	●	・運行体制の見直し、地区別説明会の実施(三川地区) ・運行委員会の実施、運行の継続(浅羽東地区、三川地区)	○	運行方法、運転手確保などについて、地域で工夫し、検討を継続できた。
サービスのレベルアップ	3 お得な運賃制度	3-①	運賃割引制度の導入	・基幹バス路線等における運賃割引制度の実証実験	バス事業者/袋井市	●	●			×	財源の確保が難しいため、実施できなかった。
		3-②	バス通学定期券購入費補助制度の導入	・高校生のバス通学定期券購入費の一部を補助	バス事業者/袋井市/教育機関	●	●			×	財源の確保が難しいため、実施できなかった。
		3-③	運転免許証返納者割引制度の導入	・高齢者の運転免許証自主返納者に対する運賃割引制度	交通事業者/袋井市/警察	●	●			×	財源の確保が難しいため、実施できなかった。
	4 分かりやすい情報提供	4-①	路線バスの情報化	・バスデータを活用した情報提供 ・袋井駅や主要施設におけるデジタルサイネージ等の設置	バス事業者/袋井市	●	●		・バスロケーションシステムの導入 ・Googleマップ等経路検索サイトへの掲載(継続) ・JR袋井駅改札前へのデジタルサイネージの設置	○	個別事業を継続できた。
	5 乗継・待合環境改善	5-①	バス停におけるサイクル&バスライド駐輪場の整備	・基幹バス路線のバス停におけるサイクル&バスライド駐輪場の整備	バス事業者/袋井市/道路管理者	●	●		・浅羽支所入口バス停駐輪場に輪留めを設置 ・浅羽図書館駐輪場の利用状況調査 ・沿線の公共施設や商業施設に協力依頼	○	段階を踏みながら、事業を進められている。
		5-②	バス停待合環境の改善	・利用者の多いバス停や主要施設のバス停の待合環境整備	バス事業者/袋井市/道路管理者	●	●		・袋井駅南バス停の新設、上屋設置	○	「ノブレスパルク袋井」バス停に上屋を設置できた。
	6 UD	6-①	車両のバリアフリー化	・ノンステップバスの導入 ・ユニバーサルデザインタクシーの導入	バス・タクシー事業者/地域公共交通会議/袋井市	●	●		・自主運行バスの車両更新(手すり+ステップ付き、ハイルーフ仕様)	○	個別事業を継続できた。
関係者意識のレベルアップ	7 意識変革	7-①	通学を対象とした路線バスの利用促進策の実施	・バスロケーションシステムによるリアルタイム情報提供 ・高校別時刻表の作成等	バス事業者/袋井市/教育機関	●	●		・バスロケーションシステムの導入 ・JR袋井駅改札前へのデジタルサイネージの設置 ・市内高校体験入学でのチラシ配布	○	個別事業を継続できた。
		7-②	大人のバス乗り方教室の開催	・運転免許証自主返納者等を対象としたバスの乗り方教室の実施	コミュニティセンター/シニアクラブ/交通事業者/袋井市	●	●	●	・シニアクラブ袋井市より市内各団体へ自主運行バスの時刻表、路線図を配付 ・ふれあい夢市場等の市内イベント出展(バス展示、乗り方チラシ配布) ・今井地区で自主バス乗車体験会実施	○	事業概要とは違う形式ではあるが、目的に沿った事業を進めることができた。
		7-③	ちびっこバス乗り方教室の開催	・小学生を対象とした楽しく学べるバスの乗り方教室の実施	袋井市/交通事業者/小学校	●		●	・市内小学校へバスの乗り方教室を実施	○	個別事業を継続できた。
		7-④	公共交通ガイドの作成	・公共交通総合ガイドブックの作成 ・新たな移動手段の分かりやすい乗り方案内の作成	袋井市/交通事業者/地域公共交通会議	●	●		・利用啓発のチラシに乗り方案内を記載	×	地域限定の交通が多く、総合ガイドブックの作成に至らなかった。
	8 人材確保 安心確保	8-①	運転士の人材確保	・交通事業者と連携した就労支援	交通事業者/袋井市	●		●	・第二種運転免許取得費用助成制度を導入 ・市内イベント出展(バス展示、運転士参加、ポスター掲示、チラシ配布)、市広報紙・HP等への掲載	○	個別事業を継続できている。
		8-②	公共交通の安心対策	・感染症拡大防止の取り組みの徹底と啓発活動実施	交通事業者/袋井市	●	●		・市広報誌や社内掲示を実施	○	コロナ禍に実施した。